

チェコと日本の 外交関係樹立100周年記念演奏会

Memorial concert 100th anniversary of the establishment of diplomatic relations
between Japan and the Czech Republic



2020年
2月7日[金]

19時開演(18:30開場)

【会場】

豊洲シビックセンターホール

東京メトロ有楽町線 豊洲駅7番出口徒歩1分
豊洲シビックセンター5階

【料金】

一般:当日3,500円、前売り:3,000円

国際マルティヌー協会日本支部会員及び学生:2,500円 全自由席



Teče voda, teče 水は流れる (E. Takamine -Vo)

B. Martinů: Sonatina pro trubku a klavír

B.マルティヌー: トランペットとピアノのためのソナチネ (Y.Ogida -Tp, L.Šabaka -Pf)

A. Dvořák: Poetické nálady

A.ドヴォジャーク: 詩的な音画集より 農民のパラード、聖山にて (K. Miyoshi -Pf)

L. Janáček: Po zarostlém chodníčku

L.ヤナーチェク: 草陰の小径にて第1集より 我らの夕べ、散りゆく落ち葉、
フリーデクの聖母マリア (Y.Sawa -Pf)

B. Smetana: Macbeth a čarodějnice

B.スメタナ: マクベスと魔女 (L.Šabaka -Pf)

C. Yamazaki: Sakura variace

山崎千晶: サクラ変奏曲 (C.Yamazaki -Vn, Comp)

K. Yamada: Tato cesta, T. Ohno: Yoi - machi - gusa

山田耕祥: この道、多忠亮: 宵待ち草
(Y.Ogida -Tp, Y.Sawa -Pf)

B. Smetana: Vltava

B.スメタナ: 交響詩わが祖国より ヴルタヴァ(モルダウ)
(ピアノ編曲版) (S.Izumi -Pf)

B. Martinů: Variace na slovenskou lidovou píseň

B.マルティヌー: スロバキア民謡による変奏曲
(K.Takehana -Tp, L.Šabaka -Pf)

A. Dvořák: Slovanské tance

A.ドヴォジャーク: スラブ舞曲集作品46より 第4番、
第8番〈4手連弾〉 (Y.Sawa -Pf, L.Šabaka -Pf)

【チケットのお申し込み・お問い合わせ】

国際マルティヌー協会日本支部

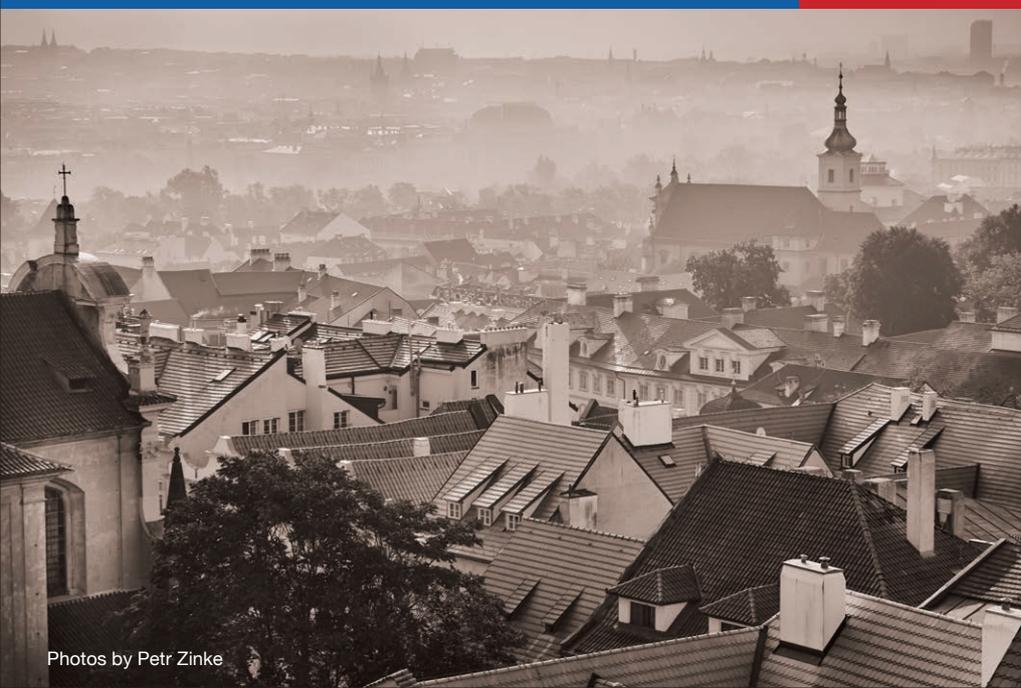
Tel: 090-9969-8622 / 090-9810-2934

e-mail: libusemusic@gmail.com

主催=国際マルティヌー協会 日本支部 協力=チェコセンター

後援=在日チェコ共和国大使館

日本ヤナーチェク友の会/リブシエ音楽企画



1920年、チェコスロバキアの初代大統領マサリク政権より駐日の任命を受けた建築家アントニン・レイモンドが、初の名誉領事に就任し、チェコスロバキアと日本は外交関係を樹立、国交がスタートしました。その後、1993年にチェコとスロバキアは、それぞれ分離独立を果たします。チェコと日本の両国は、遠く離れながらも言葉、歴史、文化、政治体制など多くの違いを超えて、この一世紀、お互いを尊重し、その関係を大切に温め、深めてきました。

2020年、外交関係樹立100周年記念の年にあたり、チェコ屈指の実力派ピアニスト、ルデック・シャバカさん、チェコセンターのエヴァ高嶺所長を迎え、日本で長年にわたりチェコ音楽を研究、演奏してきたメンバーが、共に珠玉のチェコと日本の作品をお届けします。今、その友好関係は次の新しい世紀へ！

P R O F I L E

ルデック・シャバカ *Luděk Šabaka* ピアノ

ブラハ音楽院、ピアノと作曲を学ぶ傍ら、チェコスロヴァキアの代表的なピアノコンクールのほとんどに優勝を果たし、“ブラハの春国際音楽祭”にも出演した。ブラハ芸術アカデミーにて室内楽の研鑽をつみ、著名な演奏家と共演の機会を多数重ねる。現在ビルゼン音楽院ピアノ科主任教授。2009年より才能ある子供たちのための音楽学校の校長も務める。B.マルティヌーのピアノ曲を全曲演奏しており、ラジオ、テレビ出演、国際室内楽フェスティバルに招かれて演奏。近年は毎年のように日本に招かれ、各地で演奏会、ピアノレッスンを行い、好評を得ている。



エヴァ・ミクラス 高嶺 *Eva Miklas Takamine* 歌

北ボヘミアに生まれる。1980年来日。その後フランスでの留学を経て再来日し、フリーランスで通訳および翻訳の仕事をしながら音楽活動、作曲を手掛ける(1998-2011)。また写真を学び「チェコのベルベツ革命」(1990)や「My Favorite things」(2012)の写真展を開く。2009年、本格的に音楽活動を始める。2011年、ギタリスト、佐藤達男とのコラボレーションでAlbum「My favorite things」をリリース。同年、チェコ国内で佐藤達男氏と共に4回コンサートを開く。2013年にチェコセンター東京の代表となり、以来、日本において、チェコの文化の普及に努める。



志村 泉 *Shimura Izumi* ピアノ

東京芸術大学附属音楽高等学校、同音楽学部、同大学院を卒業。松原緑、伊達純、M.ムツの諸氏に師事。在学中にクロイツァー賞受賞。1979年のデビューリサイタル以後、バロックから現代までの幅広い作品で数多くのリサイタル、また独自のコンサートシリーズも続けている。海外での演奏も多い。“ピアニストとしての優れた現代音楽演奏”に対して、「中島健蔵賞」を受賞。2019年にはテレビーン市文化会館にて9回目のソロ・リサイタル、ブラハのマルティヌー・ホールにてヴァイオリニストJ.バズデラ氏とのデュオ・リサイタルを成功させた。日本・ロシア音楽家協会会員。



沢 由紀子 *Yukiko Sawa* ピアノ 国際マルティヌー協会日本支部・プレジデント

武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。旧チェコスロヴァキア政府給費留学生として国立ブラハ芸術アカデミーに留学、故J.パーレニーチェクに師事。'04年10月のヤナーチェク生誕150周年記念リサイタルなど、チェコ音楽を中心に活動。2005年より日本とチェコやモラヴィアの友好コンサートとして「りんごと桜」プロジェクトを続ける。98年、ブラハにて「ヤナーチェクピアノ作品集」のCDをリリース。2019年3月、ブラハ、他チェコの国内で演奏。2018年3月にブラハに本部を置く国際マルティヌー協会日本支部のプレジデントに就任。現在、聖徳大学講師。



扇田 泰子 *Yasuko Ogida* トランペット 国際マルティヌー協会日本支部・事務局長

2011年ブラハ音楽院卒業、以後2014年ブラハ芸術アカデミー学士課程修了。2011年から2013年までブラハ室内フィルハーモニーのオーケストラ・アカデミーを務める。2006年、第30回チェコ全国音楽院生による管楽器コンクール第1位。2011年、第8回ブルノ国際金管コンクール第1位。チェコ、日本国内の各地で演奏活動を展開している。2018年5月、チェコのオーケストラと共演。2019年に音楽事務所ブリナールナを立ち上げ、演奏会などの企画、演奏指導などの活動も行っている。ヤマハ認定トランペット講師。



竹花 加奈子 *Kanako Takehana* チェロ

チェロ・ピアノ・作曲を行き来しながら演奏家/作曲家として独自の世界を創り上げている。桐朋学園大学卒業。バルセロナでルイス・クラレット、ブラードでバーナード・グリーンハウス各氏に師事。また、フランスの文化財団の奨学金を得てアンナー・ビルスマ氏のマスタークラス受講。2002年大阪国際室内音楽コンクールトリオ部門セミファイナリスト。現在、演奏家として各地でのコンサートやラジオ・各種メディアに登場。作曲家として楽曲提供も多数行っている。これまでに7枚のアルバムを発表、2020年に8枚目のアルバムを発表予定。



三好 恭子 *Kyoko Miyoshi* ピアノ

桐朋学園音楽大学ピアノ科卒業。チェコ政府給費留学生としてブラハ音楽院に留学。1998年B.マルティヌーコンクールピアノ三重奏部門において審査員特別受賞。ブラハ及びチェコ各地にてコンサートに出演。帰国後はソロ、室内楽、伴奏など演奏活動を行っている。2000年より東京にて7回リサイタルを開催。2017年5～6月にはチェコ各地にてコンサートに出演し、好評を博す。日本ドイツリート協会会員。



山崎 千晶 *Chiaki Yamazaki* ヴァイオリン/作曲

桐朋学園大学音楽学部卒業、チェコ共和国のブラハ音楽アカデミーに留学。スペインの王立セビージャ交響楽団に所属(99-2001)。西チェコ交響楽団のコンサートマスター(2004)。その後ビルゼンフィルハーモニーのコンサートマスターを務める(2005-2015)。2015年より東京在住。2017年チェコの「Z.ゴラ・ビブラート教本」、2019年「Z.ゴラヴァイオリンテクニクと心得」を音楽の友社より翻訳出版。作曲も手がけ、ヴァイオリン独奏曲「さくら変奏曲」やチェロ曲「音楽によるチリの旅」は吹米で演奏されている。またチェコの作曲家、J.J.リパのクリスマスミサの日本初演、武蔵野芸術祭などを企画、制作も行っている。



♪ プログラム・ノート ♪

●モラヴィア民謡 水は流れる〈Teče Voda Teče〉

チェコのモラヴィア地方の故郷を歌った有名な民謡。チェコの初代大統領マサリクが好んだという。

●B.マルティヌー (B.Martinů 1890~1959)

◆トランペットとピアノのためのソナチネは、マルティヌーがアメリカに滞在していた当時 1956 年に書かれた作品で、1957 年に初版が発売されるとともに、その爽やかさと音楽的豊かさが大変評判になった。トランペットの C 管と Bb 管用がある。

Allegro-Moderato

●ドヴォジャーク(A.Dvořák 1841~1904) :

◆詩的な音画 op.85, B.161

原題は「詩的な雰囲気」の意味。1889 年、南ボヘミアのヴィソカーの別荘で完成した。各曲とも三部（ロンド）形式をとり、ロマン派初期の叙情と、ボヘミア舞曲が織りなす綾の中に、時折リスト的技巧を交えており、ドヴォジャーク・ピアノ作品の頂点に立つ曲集といえる。

5 農民のバラード 低い変ロ短調の単音旋律にはじまり、中間部で華やかな変ロ長調の舞曲となる。

13 スヴァター・ホラにて スヴァター・ホラ（聖なる丘の意）は、別荘ヴィソカー東北の鉱山町ブシーブラムにある有名な巡礼教会で、中心になっているのはマリア礼拝堂である。

●ヤナーチェク (L.Janáček 1854~1928)

◆「草陰の小径にて」第 1 集より

この曲集は生地フクワルディで、帰らざる日々の美しい思い出を綴ったものである。はじめこれらの各曲に題名はなく、演奏楽器もハルモニウムになっていた。題名がつけられたのは 1908 年頃である。第 2 集と合わせて 15 曲全部がまとめてスプリフォン社から出版されたのは 1967 年になってからである。

第 1 集より 1 私たちの村の夕べ：フクワルディ城址への夜の散策。2 散りゆく木の葉：しばしば弦楽器用編曲で演奏される。
4 フリーデクの町の聖母マリア：巡礼の行列とマリア賛歌。

●スメタナ(B.Smetana 1824~1884)

◆マクベスと魔女たち

1856 年から 60 年まで、スウェーデンのイェテボリで活躍していたスメタナは、1859 年一時帰国の途次ドレスデンで愛妻を失う。この作品はこの頃に書かれ、魔女の予言による栄光と破局に向かうマクベスが描かれている。

リストばりの上向アルペッジョ・カデンツァにはじまり、鐘の音と栄光のファンファーレが鳴る。後半は嬰ハ短調の破滅主題が執拗にくり返され、重々しいコーダに終わる。

●B.マルティヌー (B.Martinů 1890~1959)

◆あやつり人形

これは、教育的目的に書かれたもので、若い演奏家だけでなく出版主にも人気があり、1920 年代に出版されている。

3 集あるが、作曲年代は曲集の逆順になっている。

第 I 集 H.137, 1924 年作 (H・ファウルに献呈)

1) コロンビーナは踊る：ワルツ風。コロンビーナ(小鳩)は、コメディア・デラルテに登場する純情な小娘。

5) あやつり人形たちの踊り：ショパン風のワルツ。華やかなあやつり人形の世界を華麗に表現している。

●山崎千晶 (Chiaki Yamazaki) サクラ変奏曲

ヴァイオリン独奏のための「サクラ変奏曲」は 2013 年に作曲した。

日本を代表するサクラのメロディーをヴァイオリンの技巧を生かしてヴィルティオーソ的に作曲したものである。同年のチェコ初演以来、楽譜も売られており、欧米や国内の日本人演奏家に演奏されている。

また、山崎千晶はこの曲で書とのパフォーマンスをスペインやチェコで行い、好評を博した。

●山田耕筰 (1886~1965) この道 ●多忠亮 (1895~1929) 宵待ち草

ウクライナ出身のトランペット奏者、音楽教師、ボリショイ劇場の首席トランペット奏者として活躍したティモフェイ・ドクシツェル (Timofei Dokshizer) によって編曲され、日本のメロディーとしてロシアで出版されている楽譜をもとに演奏する。

●スメタナ (B.Smetana 1824~1884)

◆連作交響詩「わが祖国」の第 2 番「モルダウ」は、世界中の人が知る名作であり、チェコの人々にとっては最も大切な音楽であると思います。オーケストラの響きには遠く及びませんが、ピアノで演奏することも私にとってはこの上ない喜びです。

(志村 泉さんのコメントより)

●B.マルティヌー (B.Martinů 1890~1959)

◆スロヴァキア民謡主題による変奏曲 H.378

1959 年 3 月 12 日シェーネンベルクで完成。主題の民謡は「Ked' bych já veděla もしあたしが知ってたら」で、フィグシュ=ピストリー-Villam Figuš-Bystrý (1875~1937) 収集のスロヴァキア民謡集第 1 巻(1906 年)からとっている。初演は同年 10 月 17 日 S・ヴェチトモフと V・トピンカにより、プラハで行われた。ツインバロンを模したアルペッジ・ピアノ前奏のあと、リディア旋法によるバラード風の基音への主題がポコ・アンダンテで示され、変ロ短調で繰り返される。

●ドヴォジャーク (A.Dvořák 1841~1904) :

◆スラヴ舞曲第 1 集 作品 46, B.83

1876 年の『モラヴィア 2 重唱曲集』がブラームスに認められ、ウィーンから奨学金を受けたドヴォジャークは、その楽譜がベルリンのジムロック社から出版され一躍有名になった。彼の才能を認めたジムロックは、当時人気のあったブラームスのピアノ連弾曲『ハンガリー舞曲集』にならい、ドヴォジャークに『スラヴ舞曲集』の作曲を依頼し第 1 集は 1878 年に完成された。後に第 2 集も出版され、管弦楽曲に書き換えられる。

第 4 番 : ソウセツカー、ヘ長調、3/4 拍子、テンポ・ディ・メヌエット。3 部形式。収穫祭のあとに近隣 (ソウセト) の人が集まり踊ったのが起源。**第 8 番** : フリアント、ト短調、3/4 拍子、プレスト。複合 3 部形式。元気いっぱいの農民の踊り。

(チェコ音楽研究家 故関根日出男先生の解説を一部掲載させて頂きました)

